

今月の御教え

神のおかげで生まれてきた人間であるから、死ぬのも神のおかげでなくて死ぬるものか。そうであるから、生まれたのがめでたいなら、死んで神になるのは、なおのことめでたいではないか。死ぬのがつらいというのは、まだ、死ぬのをいとわないだけの安心ができていないからである。信心して、早く安心のおかげを受けておかなければならない。神のお計らいでは、いついっくかもしれないのに、その際のうるたえ信心では間に合わない。平生から、まさかの折にうるたえないだけの信心をしておかなければならない。

……「天地は語る」五十八条……

解説

この御理解の意義は「生まれる」「死ぬ」という人生最大の出来事は、人間の力の及ばぬことと、まさに私達人間の親である天地の親神様のなされることとであるということとです。そうして「生まれたのがめでたい」と言うのは「命を頂き、この世に生を受けていることが有り難い」事は言うまでもないことですが、我々人間が最も怖れ、忌癖する「死」をも「めでたい」と言われるのは、どういう事でしょうか。それは、死ぬのは人生の終焉ではなく「死んで神になる」ことで、即ち「御霊の神」となり、形を変えて存在し続ける事をお示し下さっているのです。ですから私達も日々信心の稽古に勤しみ、この御教えを本当に体得できれば、御教えどおりに「死ぬのをいとわぬ」安心の境地を得られるのであります。